

STEMが再構築されるそうである。したがって、「内なる破壊と再構築」という中学生期のテーマは、脳の発達面からも裏付けられていると言える。

個人差はあるが、思春期は、脳のシSTEMが再構築される成長期であるがゆえに、次のような、十分に注意しなければならぬ特徴がある。

○人の気持ち伝わりにくい。(情動判断の遅れ)

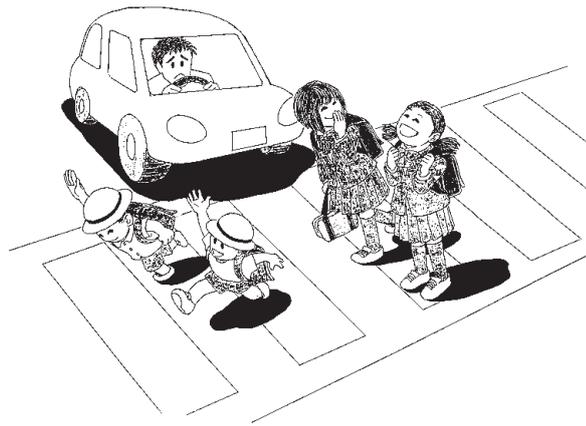
○将来のことまで考えが及ばず、今現在の目の先の楽しさにとらわれやすい。

(困難な快予測)

○気持ちが不安定で、わけもなく感情が揺れ動くことがある。(不安定な情緒)

思春期は、気持ちが不安定で、人の気持ちを思いやることができず、目の先の楽しさを求める傾向があるため、小学校低学年の児童がきちんとできることでも、思春期にある高学年児童や中学生にはできないことがある。横断歩道の渡り方が、その好例である。小学生の方が、中学生よりもずっと礼儀正しく、きびきびと横断するのではないか。中学生が集団になると、「待っているのだから、早く渡りなさい。」と急かしたくなるほど、その傾向は強まる。だが、当の中学生には悪意など微塵もないことが多い。ただ、車

を停めて待っている運転者の気持ちに思いが及ばず、友達とおしゃべりという目の先の楽しさに没頭しているのである。



このような思春期の特徴を自覚していないために、起こってしまう中学生の深刻な問題行動がある。それは、いじめである。「うざい」「きもい」「死ね」などと言われた生徒がどんなに嫌な思いをするのか、言った生徒には実感できず、また、集団から仲間外しにされた生徒がどれほど切なく、どれだけ悩み苦しむのか、察することができないのである。そのため、人をからかったり、小馬鹿にしたりする目の先の楽しさが止まないものである。そこで、ぜひとも思春期の三つの特徴を自覚しよう。いじめは複雑な要因が絡み合っ

特徴を自覚することによって、いじめの加害者になってしまふ生徒が激減すると信じている。

中学生として、人として絶対にしてはいけないことがある。それは、人を馬鹿にすること(人の尊厳を傷つけること)。人を仲間外しにすること(人を軽視し、排除すること)。そして、人をいじめること(人の身体と精神を攻撃すること)である。

ところが、このことを知識としては知っていても、具体的な行為に結び付かない児童・生徒がいる。であるから、何が絶対にしてはならない言動や態度なのか、具体的に確認しよう。

口汚い言葉は人の心を深く傷つけるので、人に向かつて、「うざい」「むかつく」「きもい」「ばか」「汚い」「くさい」「バイキン」「死ね」などと言ってはならない。

容姿を動物などにたとえたり、おもしろおかしくまねをしてからかったりしてはならない。悪口や陰口も禁句である。

無視したり、わざとらしく避けたり、落書きしたり、物を隠したり、靴に画鋲を入れたり、机を運ばなかったり、給食を用意しなかったり、舌打ちしたり、これ見よがしにため息をついたりする行為も、厳に戒めなければならない。さら

に、目つきや態度で、人を小馬鹿にする雰囲気醸し出してはならない。

なぜなら、これらの言動や態度は、人の心と体を攻撃し、傷つけるいじめであり、人権を侵害する差別であり、時として人の命を奪う犯罪であるからである。のみならず、このような恥ずべき陰湿な言動をとるたびに、純真さや素直さ、誠実さ、優しさなど、その子が生まれつき持っている良さが失われていくと感ずるからである。

いじめられていること(またはいじめがあること)を教師や家族に話すのを、チクる行為として嫌がる生徒がいるが、それは、いじめられている生徒を守るだけではなく、加害生徒も守る「正義告発」である。決して卑怯な行為ではない。「正義告発」のできる中学生になろう。

*

入学・進級から約2ヶ月経ちました。ともすると初心が薄れる時期です。日々、為すべきことを誠実に為すとともに、「負の可能性」にも毅然と向き合い、いじめは絶対に許されない卑劣な行為であるという知識と自分は絶対にいじめの加害者になるまいという決意が、迂回して歪んだり、屈折して滞ったりすることなく、自分自身の言動に直線的に結び付く児童・生徒であってほしい、と切に願っています。